



富山市長 藤井裕久

No.24 「雨」にみる日本人の感性

桜の開花宣言が日本列島を北上するころ、「今週は曇りや雨の日が多く、菜種梅雨が続くでしょう。」という天気予報をしばしば耳にする。中学校の先生が、降り止まない雨の中で咲く校庭の桜を眺めながら、こんな天気を「菜種梅雨」というのだと教えてくれた。菜種梅雨とは、菜の花が咲く3月中旬から4月上旬にかけて、ぐずついた梅雨のような天気が続くことをいうのである。

さて、日本には「雨」ひとつをとっても四季折々に、また雨の降る状態によっても、実に多彩で情緒あふれる豊かな表現がある。季節による雨の呼び名をみると、春に降る雨を春雨や催花雨などということもある。おおよそ6月頃(旧暦の5月頃)の梅雨時に降る長雨は五月雨、夏の夕方に突然激しく降るのが夕立、秋にしとしと降り続く雨を秋雨や秋雨、今にもみぞれや雪に変わりそうな冷たい冬の雨を氷雨などと呼ぶ。

また、雨の状態を表したものでは、急に短時間で激しく降る群雨やにわか雨、小降りの雨を小雨、風を伴う風雨、雷を伴う雷雨、細かく降る雨を小糠雨や霧雨など、一説によると雨の呼び名は実に400以上あると言われている。実に多様な表現である。

さて、「雨」にまつわる数多くの俳句や短歌も、日本の豊かな自然や人々の生き活きとした営みを表現し、時代を超えて今も多くの国民に愛されている。松尾芭蕉の俳句「五月雨を あつめて早し 最上川」や、与謝蕪村の「秋雨や 水底の草を 踏わたる」などは俳壇や歌壇には縁遠い自分でも覚えがあるものだ。また、越中ゆかりの歌人である大伴家持の和歌「この見ゆる 雲ほびこりて との曇り 雨も降らぬか 心足ひに」や、石川啄木の短歌「雨に濡れし 夜汽車の窓に 映りたる 山間の町の ともしびの色」なども、言葉の意味や時代背景を調べながら、作者の気持ちや目にした風景、当時の暮らし向きなどに思いを巡らせるのも実に楽しいものである。

そもそも日本人は、古より自然への畏怖の念を持ち自然と共生してきたがゆえに、「雨」や「風」といった自然を構成する要素を感じたままに実に様々に表現し、豊かな感性を育んできた。そして、日々の暮らしの中で育まれてきた日本人の豊かな感性は、先人によって長い歳月を経て俳句や短歌、絵画などの芸術や文化にまで高められ、今も私たちの心の中に息づいているのである。その豊かな感性こそ、私たちが未来を担う子供たちに継承してゆくべき大切な宝物ではなかるうかと思うのである。



雨に濡れる桜の木

今月の 広報クイズ

5月12日(金)~13日(土)に、富山市で、「〇〇富山・金沢教育大臣会合」が開催されます。

〇に入る文字は？ 答「〇〇」

はがきかEメールで、答と郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先(電話番号かメールアドレス)と「広報クイズ応募」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ(1人1通)。

広報とやまに対する意見・感想もお待ちしております。

締め切り▶5月17日(水)(必着) [E]kouhou-01@city.toyama.lg.jp

賞品▶500円分の図書カード(抽選で5人)

当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます。

前月の答え 特等席 前月の応募総数 226件(正解数225件)



とやま情報局

今月の放送日 5月28日(日)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ「ファミリーパークの使命」

二ホンライチョウ、ツシマヤマネコ、熱帯地域に暮らす鳥たちなど、絶滅の危機に瀕する動物の現状や、希少な生物を守るファミリーパークの取り組みについて紹介します。

市ホームページ(市政情報⇒広報・広聴⇒とやま情報局)



新しく仲間入りした ツシマヤマネコのメイ

富山市の人口・世帯数(対前月比)【令和5年3月31日現在】人口…407,542人(-751人) 世帯…184,071世帯(+261世帯)

新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、変更になる場合があります。

令和5年(2023年)5月5日発行 - 15